

三月の星の空 (北半)

太陽系

太陽は月始めから双魚宮にあるが、21日に白羊宮の原點(即ち春分點)に入る。此の日が春分で、太陽の赤經も赤緯も共に零である。

月は 満月——6日午後8時27分	下弦——15日午前0時20分
新月——22日午前5時29分	上弦——28日午後8時54分
遠地點通過——11日夕刻	近地點通過——23日夕刻

水星は曉、東天の星。次第に太陽より遠ざかり7日留を経て、22日西方最大離角(28度)となる。今年中で最も太陽より遠ざかる時であり、而も光度が1等以上であるから觀望には絶好の機會。望遠鏡を用ふれば、丁度半月型に缺けてゐる事が知れる。直徑は角度にて7秒餘。

金星も曉東天の星、光度は負3等であるが次第に太陽に近付く。20日午前3時に月と合さなる。月の前半は山羊座に、後半は水瓶座にある。

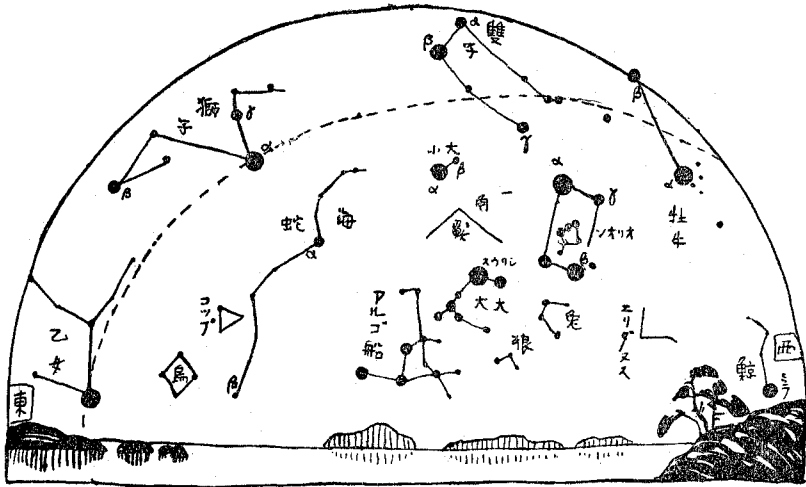
火星も曉の星で金星の西に位する。月始め山羊座の西端にあるが、月末には東端テ星附近まで進む。光度は1等。

木星、唯一の肉眼的宵の遊星であるが、月末には太陽に近付く爲め觀望には不便。

土星は丁度、蝎座の尾の北に位してゐるので夜半過ぎでないで登つて來ない。光度は1等。

天王星は宵の西天にあるが光度が6等より少し小さいので双眼鏡は必要。しかし24日太陽と合さなるので其の前後は觀望出來ぬ。

海王星は獅子座主星リゲルの直ぐ西に位するから見付けるのは容易、丁度夜半頃南中する。



三月の星の空(南半)

恒 星 界

桃の節句も過ぎると、椽に落ちる日ざしも日毎に永く、よみがへつた青葉は、のどかな堤を緑に包む——

地上の世界が春を迎へる頃、天上の世界も亦、冬に別れを告げてゐる。

冬の星座オリオン——その大星雲は肉眼でも其れさうなづかれ、望遠鏡で見れば規模の廣大に驚き、寫眞を撮れば其の複雑した構造に更に一驚を喫す——此のオリオンも既に西に傾き、全天にて最大光度に輝やく恒星シリウスや2時で見頃の二重星 μ 星(距離17.5秒, 光度5.8等と8等)等を含む大犬座も亦彼れに續き、冬の間、吾人の眼を楽しました此等の星々は、唯だ宵の西空に黄道光が輝く頃、暫し姿を現はすのみ。冬の星座が西に没すると、可成り寂寞を感じる様になる。

併し光度の強い星が少なくても、觀望すべき材料はまだまだ少なくない。

見よ、春のしるしの獅子、乙女が既に東天に登つてゐるではないか!

獅子座 β 星は二重星である。二星間の距離も相當大であり、光度も2.2等と8等であるから小望遠鏡に適する。二重星には尙蟹座 ϵ 星がある。光度は4.2等と6.6等、色の對照が黄對青で美しく、2時級で見頃の星である。又海蛇座 ϵ 星は三連星である。永い週期でお互の廻りを廻つてゐる。併し距離が近い爲め3時でも二星に分れて見えるのがやつと(光度が3.6等と7.8等とに)三星共見るには18時が必要である。3時があれば乙女座内丈でも可成り多數の星雲が見られる。中にもメシヤの49, 60, 61, 86, 99等は特に目立つて美麗である。

此等の星や星雲の位置を知る爲めには古賀恒星圖があれば十分である。